

# 検査ニュース Vol. 3 No. 3

ご挨拶

平素より佐賀県健康づくり財団 佐賀県健診・検査センターの業務にご協力及びご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回は、「Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症 (CDI)」及び採取容器の変更についてご案内致します。

佐賀県健康づくり財団  
佐賀県健診・検査センター  
専務理事 志 田 正 典

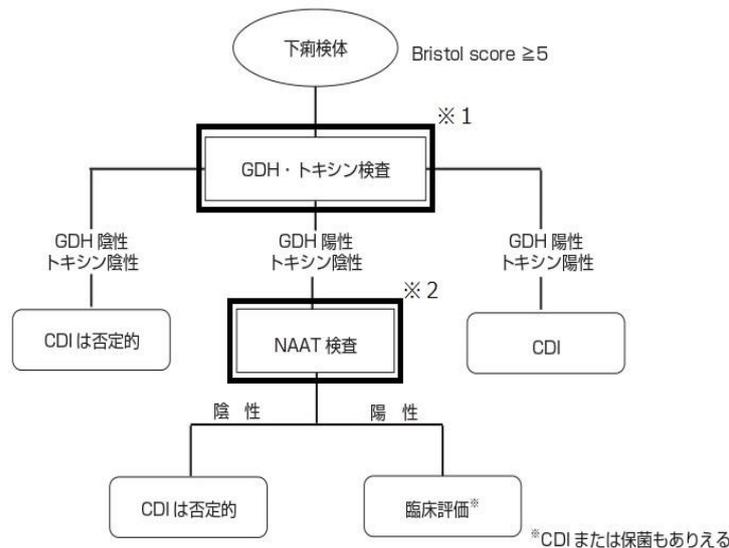
## ●Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症 (CDI) について

クロストリジオイデス (クロストリジウム) ディフィシルは一部の健常者の腸内に定着している嫌気性菌であるとともに、有芽胞菌であるため、抗菌薬治療などで正常な腸内細菌叢が乱されると異常増殖することや、エタノールなど一般的な消毒剤は無効であることが知られています。また、病原因子である毒素 (Toxin AおよびB) の産生菌株が異常増殖すれば、下痢症や偽膜性大腸炎など多様な症状の *Clostridioides difficile infection* (CDI) を発症することが知られています。

*C. difficile*による腸管感染症は、Bristol stool scale 5以上の下痢を認め、CDI検査にて便中のトキシンが陽性もしくはトキシン産生性の *C. difficile*を分離する、もしくは下部消化管内視鏡や大腸病理組織にて偽膜性腸炎を呈するものと定義されています。

検査の考え方として、GDH・トキシン検査を行い、その結果に基づいて *C. difficile* 毒素遺伝子検査を組み合わせるアルゴリズムが推奨されています。

【参考】通常診療における *C. difficile* 検査の考え方 (CDI診療ガイドライン作成委員会：2018より引用)



### ■項目の紹介

※1 CDトキシン (GDH) 検査 (検査受託可能：「検査ニュース Vol.2 No.3」参照)

項目コード No.	検査項目	検体量	保存	容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値
3298	CDトキシン (GDH)	便 1.0g	冷蔵	便容器	80 ※5	2~4	イムノクロマト法	CDトキシンA,B (-) ディフィシル抗原 (GDH) (-)

※5 免疫学的検査判断料

# 検査ニュース Vol.3 No.3

## ■新規項目

※2 NAAT 検査 (CDトキシンB遺伝子 定性)

(検査受託可能)

本項目は、糞便を検体として、クロストリジオイデス ディフィシルが産生するToxin Bの遺伝子 (*tcdB*) をリアルタイムPCR法により定性的に検出し、高感度に毒素産生菌を検出することが可能となります。

項目コード No	検査項目	検体量	保存	容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考
3295	CDトキシンB遺伝子 定性	便 1.0g	冷蔵	便容器	450 ※6	2~4	PCR (リアルタイムPCR)	陰性	単独の検体にてご依頼ください。

※6 微生物学的検査判断料

【診療報酬算定上の留意事項】(「医科点数表の解釈」より抜粋)

ア クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出は、以下の(イ)～(ハ)をいずれも満たす入院患者に対して実施した場合に限り、区分番号「D023」微生物核酸同定・定量検査の「12」ブドウ球菌メチシリン耐性遺伝子検出の所定点数に準じて算定する。

(イ) Clostridium difficile (CD) 感染症を疑う場合であって、クロストリジウム・ディフィシル抗原定性検査において、CD抗原陽性かつCDトキシン陰性であること。

(ロ) 2歳以上でBristol Stool Scale 5以上の下痢症状があること。

(ハ) 24時間以内に3回以上、又は平常時より多い便回数があること。

イ 本検査は、関連学会の定める指針に基づき実施した場合に限り算定できる。

ウ 本検査を行う場合にあっては、区分番号「D026」の「注3」に規定する検体検査管理加算(Ⅱ)、(Ⅲ)又は(Ⅳ)のいずれか及び区分番号「A234-2」の「1」感染防止対策加算1の施設基準を届け出ている保険医療機関で実施した場合に限り算定できる。

エ 本検査を行う場合、下痢症状並びに本検査を行う前のCD抗原及びCDトキシンの検査結果について診療録に記載すること。

オ 本検査と区分番号「D023」微生物核酸同定・定量検査の「15」細菌核酸・薬剤耐性遺伝子同時検出を併せて測定した場合には、それぞれ算定できる。

## ●採取容器の変更

現容器の販売中止に伴い、容器の形状(下図)を変更させていただきます。

なお、容器および検体の取り扱い方法の変更はありません。(現在の容器での検査依頼も可能です)

変更内容	現	新
容器形態 S5F		<p>キャップの色 「黄色」⇒「赤色」 に変更</p> <p>凝固促進剤+ 血清分離材入り (真空採血量5mL)</p> <p>貯蔵方法 常温</p> 

### <対象項目>

項目コード	検査項目
2061	HCV-RNA定量 (リアルタイムPCR)
2078	HCV RNAコアジェノタイプ
3880	HBV-DNA定量 (リアルタイムPCR)